

処方箋に検査値表示

磐田市立総合病院 患者の安全性向上図る

磐田市大久保の市立総合病院(鈴木昌八院長)が4日、外来患者を受け取る院外処方箋



への臨床検査値の表示を始めた。県内の市立病院では初の取り組みで、患者の安全性向上や薬剤師の服薬指導の充実などを図る。

表示するのは肝臓や腎臓などに関わる15項目で、180日以内の直近2回分。これまで院外薬局の処方箋は、患者の見た目や面談など

薬物治療を受ける外来患者の安全性向上のため、臨床検査値を表示した院外処方箋は4日午後、磐田市大久保の市立総合病院

の口頭で判断するケースが多かった。薬剤師も客観的な検査値をじかに確認することで、処方方の適切さをチェックする。

同病院は国の地域がん診療連携拠点病院に指定されていて、抗がん剤など腎機能や肝機能に重大な影響を及ぼす可能性のある「ハイリスク薬」を多く扱い、病院と院外薬局の連携は不可欠という。

同病院は外来患者の院外処方箋発行率が約93%という状況を踏まえ、表示を決めた。同病院の正木銀三薬剤部長は「院外薬局からも

積極的な問い合わせを受け、地域医療の充実と安全安心につなげた。患者さんは必ず薬局に提示してほしい」と話した。

県内では、聖隷浜松(浜松市中区)、浜松医科大学付属(同市東区)、県立総合(静岡市葵区)の3病院が検査値表示を導入している。(磐田支局・駒木千尋)